



カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 令和元年10月号

お陰をもちまして、創立50周年記念式典を無事挙げていたしました。

ベイエリアの空に、秋を感じさせる、うろこ雲やひつじ雲を見ることができるようになりました。去る10月5日(土)には創立50周年記念式典を多くの方々のご協力をいただき、盛大に挙げて行うことができ、ありがとうございました。ここで、式辞の中で紹介した本校50年のあゆみの抜粋と児童・生徒代表2名の原稿をご紹介します。

— 式辞 —

私たちが毎週土曜日に、サンフランシスコ・サンノゼそれぞれの学校で学習できることは当たり前のように、そうではありません。五十年間にわたって社会や環境の変化に対応してきた関係者の方々のたゆまぬ努力や、幼児・児童・生徒のみなさんの真面目な学習、保護者の皆さんの願いや協力があったからこそその五十年間の積み重ねだったのです。学校を支えてくれた多くの方々に感謝しながら、私たちの学校のあゆみを振り返ってみたいと思います。

- 私たちの学校は1968年にサンフランシスコのアウターリッチモンドにあるパイン・メソヂスト教会で日本語教室として国語と算数・数学の学習がスタートしました。
- 翌年の1969年、昭和44年にカリフォルニア州から学校法人として認可され、全校児童生徒126人の学校が誕生したのです。1970年には小学1年生から5年生は3時間の授業、小学6年生から中学3年生までは6時間授業で国語・算数数学・社会・理科の4教科の授業が行われました。1979年の創立10周年には全校児童生徒423人で、運動会を実施しました。
- 1983年には、サンフランシスコ日本語教室が小学部と中高部に分かれて学習するようになり、1986年にはサンノゼ小学校が開校しました。
- 1989年、平成元年に創立20周年を記念して、現在の校歌が生まれました。児童生徒の数は1100人を超える中、サンフランシスコ大地震が発生して、私たちの先輩は被害者救済のために1万ドルの寄付をしたそうです。
- 1992年には、サンノゼ中高部も開校し、現在の4校が出来上がり、1997年には現在の校章をみんなで決めることができました。デザインの中の橋は、ベイエリアを代表するだけでなく、日本とアメリカ、また世界への架け橋に子ども達がなってくれるよう、願いを込めたもので、かもめはベイエリアでよく見かける鳥でもあり、明日へ、また未来へと飛躍する子ども達をあらわしています。また、外側の円は、人の輪や世界の和を意味しています。
- 1998年にはサンフランシスコ日本語補習校に名前が変わりました。2004年には小学部低学年は3時間授業から4時間授業に変わり、2007年には放課後クラブがスタートしました。2008年にはサンフランシスコ校・サンノゼ校の両校に幼稚部が開設されました。
- 2009年の創立40周年記念行事は、学校を支えてくださっている方々が中心となってサンノゼ・ジャイアンツ球場で開催され、この当時の児童生徒は1200人を越えていました。そ

の後、4校とも幼児・児童・生徒数は順調に伸びて、現在1700人の世界屈指の大規模校に成長しています。今日の式典は、サンフランシスコ日本語補習校が大きくなるにつれて4つに分かれるようになってから初めての、全校による学校行事です。今日集まってくれた皆さんは、昭和・平成・令和という長い補習校の歴史の中で、たまたまこの時期にバイエリアに住んで、共に日本語で学ぶことを志した仲間です。日本の茶道の教えにもあるように「一期一会」を大切に、そんな偶然の出会いを大切にしたいと思います。そして、自分や家族、友だちを大切にしたいと思います。



幼小部サンフランシスコ校 代表 小学校6年 レイモンド まや

私の将来の夢は大学のバスケのコーチになることです。私は、1年生の時からバスケをしています。始めたころは、シュートをしてしても全然ゴールにとどきませんでした。シュートが入らない時期が何年も続きました。でも何年も一生けん命練習しているうちに、自分の思うような動きが出来るようになってきました。

日本語の勉強もバスケの練習と同じだと思います。現地校の宿題の後に、さらに補習校の勉強をするのはとても大変で、いやになる時があります。それでも、音読や漢字の練習は毎日してきました。その結果、「あいうえお」から始めた私が、今では環境問題に関する意見文まで書けるようになりました。毎日少しずつでも続けて頑張ることが大切なのだと分かりました。

私の父はアメリカ人で、母は日本人です。でも、私は、自分は100%日本人だと思っています。そして、100%アメリカ人でもあると思っています。だから将来は、自分の意見を日本語でも英語でもちゃんと伝えられるような大人になりたいです。そのためにも、補習校では、日本人として学ぶべき事を、しっかり勉強していきたいです。

今年、補習校はそうりつ50周年をむかえました。私はこれからも日本人としてのほこりをもって、夢に向かってあゆんでいきます。このサンフランシスコ日本語補習校がえいえんに続くことを願っています。

中高部サンノゼ校 代表 高校2年 田山 和樹

サンフランシスコ日本語補習校は先生方や先輩方の多大なる努力により、今年創立 50 周年を迎えることができました。長い年月をかけて築き上げられた補習校の在校生として、この場にいることを嬉しく思います。

11 年前に入学してから、私は補習校で様々な経験をしてきました。学習面では、作文や漢字テスト、中高部の定期テスト。それだけでなく、補習校は私にある大事なことを教えてくれました。物静かだった私を後押ししてくださった先生。クラスの皆を集めて一緒に遊んでくださった先生。相談に乗ってくれた先輩方や友達。共に学芸祭やスポーツ大会などで一丸となった同級生。話す度に元気を与えてくれた後輩。多種多様な人たちとの関わりを通して、私は自立しつつも周りの人と協調する大切さを肌で感じることができました。学習面だけでなく、一人の人間として私を成長させてくれた補習校へ心から感謝しています。

補習校には、日本という共通点を持ちながら、環境や生活、視点や性格が異なった人たちが集まっており、私にとって唯一無二の経験ができる貴重な場所です。補習校がそのような大切な環境だからこそ、私には一つの願いがあります。サンノゼ校に通う私は、サンフランシスコ校の先生方や生徒と殆ど関わりを持ったことがありません。何らかの形で交流を深めることができれば両校共により豊かな学校生活を送ることができると思います。50 周年を機に、今後両校の交流が深まることを望んでいます。

50 年後でも、補習校が生徒に希望や勇気を与え続ける存在であることを心から祈っております。

